

[成果情報名] 大粒で食味良好な赤色のブドウ新品種「甲斐ベリー7」の開発

[要約] ブドウ「甲斐ベリー7」は、欧州系二倍体赤色の新品種である。成熟期は育成地において8月下旬である。果粒重は18g程度となり、マスカット香を呈し、皮ごと食べられ、食味は良好である。

[担当]山梨県果樹試験場・育種部・生食ブドウ育種科・内藤一孝

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

近年、産地や市場からは、「シャインマスカット」の特性を引き継ぐ、赤色を中心とした皮ごと食べられる着色系品種の開発が求められている。そこで大粒で食味良好な、本県のオリジナル品種を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 「甲斐ベリー7」は、平成19年に大粒赤色品種である「サニードルチェ」に、食味が優れる「シャインマスカット」を交雑して得られた実生から育成した二倍体品種である。種苗法に基づく品種登録において、令和元年11月19日に出願公表された。
2. ジベレリン処理した果房の成熟期は、果樹試験場(標高470m)において8月下旬であり、「シャインマスカット」とほぼ同時期となる(表1)。
3. 果皮色は赤色である。なお十分着色すれば、果房全体に鮮やかな赤色になるが、果頂部はやや薄い着色となるほか、果底部の着色も進みにくい傾向がある(図1)。
4. 果粒重は平均18g程度となり、糖度は19° Brix程度である。マスカット香を呈し皮ごと食べられ、食味も良好である(表1)。
5. 花穂下部4cmを用いて房づくりを行い、満開時にフルメット液剤5ppmを加用したジベレリン25ppm、満開2週間後にジベレリン25ppmで処理し、摘粒時に軸長約7cmで35粒程度に摘粒すると600g程度の果房となる。
6. 果房の上部支梗が伸びやすく、果房上部が密着しにくい傾向がある(図1)。

[成果の活用上の留意点]

1. 雄ずい反転性であるためジベレリン処理が必須であり、処理に際しては「二倍体欧州系品種」が適用される。
2. 光が果房に直接当たらないと着色しにくいいため、果粒軟化期以降は着色管理(透明カサへの掛け替え、新梢管理、反射マルチの敷設)を徹底する。ただし直射日光が強い箇所は、日焼けのおそれがあるので注意する。
3. 短梢剪定栽培では、花穂の着生が不安定な傾向が見られるため、現段階では長梢剪定栽培を推奨する。なお短梢剪定栽培については、今後も検討する。

[期待される効果]

食味良好でボリューム感のある赤色系ブドウの県オリジナル品種として、県内への普及が期待できる。

[具体的データ]

表1 「甲斐ベリー7」の樹体及び果実特性(山梨果試 2017～2019年)

品種・系統	樹勢	満開日	果粒軟化日	収穫始め日 ^y	果房重(g)	果粒重(g)	果粒形	果皮色	果皮色 ^x C.C.
甲斐ベリー7原木	中	6/1	7/17	8/18	641	18.3	長楕円	赤	3.6
甲斐ベリー7複製樹 ^z	強	6/5	7/25	8/30	617	17.7	長楕円	赤	3.6
サニードルチェ	強	6/2	7/26	8/29	563	15.7	長楕円	赤	4.4
シャインマスカット	中	6/2	-	8/28	557	15.0	短楕円	黄緑	-

(続き)

品種・系統	はく皮の難易	果肉特性	糖度(°Brix)	酸含量(g/100ml)	香気	渋み	裂果粒率(%)
甲斐ベリー7原木	難	崩壊	19.2	0.42	マスカット	無	0.2
甲斐ベリー7複製樹 ^z	難	崩壊	18.6	0.65	マスカット	無	3.2
サニードルチェ	難	崩壊	17.3	0.39	その他	無	7.2
シャインマスカット	難	崩壊	17.6	0.29	マスカット	無	0.3

台木・樹齢：甲斐ベリー7原木(101-14台・9～11年生)、甲斐ベリー7複製樹(101-14台・5年生・2樹反復)、サニードルチェ(テレキ5BB台・10～12年生)、シャインマスカット(101-14台・12～14年生)

長梢・種なし栽培、甲斐ベリー7、シャインマスカット:GA(F5)+GA25、サニードルチェ:GA25(F5)+GA25(F5)

z) 2019年のデータ

y) 収穫始め(甲斐ベリー7、シャインマスカット:糖度18°Brixを超えた日)、(サニードルチェ:糖度16.5°Brixを超えた日)

x) 赤色系ブドウ専用カラーチャート(山梨県総合理工学研究機構)：0(緑)～6(濃赤)



図1 「甲斐ベリー7」の果房

(左図：良果房、右図：上部支梗の伸長と果底部の着色が進みづらい状況)

[その他]

研究課題名：着色系オリジナル品種の育成

予算区分：県単(重点化)

研究期間：2004年度～

研究担当者：内藤一孝、小林和司、雨宮秀仁、塩谷諭史、山下浩輝、両角斉彦